

ふれあい動物部だからこそできること

— 私たちだけの特別講座 —

植村亜也 生田知也 奥水絵里花 関戸結貴 田中梨絵 辻祐喜

1 大阪府立農芸高等学校について

本校は1917年に創立され、今年で88周年を迎えた伝統校である。学校の敷地面積は約9万㎡と大阪府下の高等学校の中で第二の広さを誇り、広大な敷地内には美しい緑の環境が整備されている。生徒たちは「命のふれあい、自然愛」など自然の恵みを大切にしながら、新しい農業技術を生かし、動植物を育て、都市における農業のあり方について日々勉学に励んでいる。本校には「ハイテク農芸科」「食品加工科」そして「資源動物科」の3つの学科があり、各分野の専門知識について学んでいる。

ハイテク農芸科(1学年1クラス40名)では、園芸植物の栽培実習、研究実験を通して実践的な専門学習を行っている。植物バイオテクノロジーやコンピュータ制御などの先端技術を学習し、新しい時代のニーズに対応できる知識・技能・ハートを持った農業自営者や関連産業技術者として、社会で活躍できる人材の育成を目指している。

食品加工科(1学年2クラス80名)では、栄養価が高く、しかも健康に役立つ高付価値食品の加工や製造、貯蔵などについて学習している。先端機器を用いて食品について分析し、科学的データをベースにおいしく安全な加工食品を生徒が実際に製造している。私たちが食している様々な食品の流通や消費、食品加工の意義を学び生産の喜びを知ることにより勤労意欲の高い食品加工関連産業技術者の育成を目指している。

資源動物科(1クラス2クラス80名)では、家畜の飼育・繁殖・衛生に関する基礎、畜産物の製造加工や情報処理、生命と環境などの広い領域にわたって専門知識と技術を学習している。家畜の育種や新たな畜産物の開発・加工の可能性の探求を学習している。そして動物を愛する心を育み、命の大切さ・尊さを忘れず、また先端技術に偏るのではなく自然界の秩序を重視した学習を行い、畜産経営者・関連産業技術者の育成を目指している。

2 農業クラブについて

農業クラブとは、全国の農業科高等学校に通う生徒によって組織されており、農業に関する様々な分野について学習活動を行う場である。将来、農業経営者や農業に関する技術者として立派に活躍するために必要な3つの力、「科学性」「社会性」

1917年(昭和22年)創立



「指導性」を身に付けることを第一の目的としている。

本校資源動物科には、乳生産加工部、中小家畜部、総合環境部、ふれあい動物部の4つの農業クラブがあり、1年生の1学期終了時に自らの興味・関心に応じて所属する農業クラブを決定する。

日本学校農業クラブ連盟

近畿ブロック学校農業クラブ連盟

大阪学校農業クラブ連盟

大阪府立農芸高等学校

ハイテク農芸科 食品加工科 資源動物科

3 ふれあい動物部について

ふれあい動物部では、ウサギ、フェレット、キャンベルハムスター、ジャンガリアンハムスター、ヤギ、ヒツジ、モルモット、ポニー、ブレイリードッグ、スナネズミ、ホッキョクギツネ、マウス、ラット、ミニブタ、コーンスネーク計15種類の伴侶動物を飼養管理している。給餌・清掃等の日々の管理作業は、部員である本校生徒が365日交代で行っている(部員数54名)。1994年の創設以来、これらの管理動物を幼稚園、小学校、老人介護施設など様々な場所に連れて行き、動物介在活動(A.A.A)及び動物介在教育(A.A.E)の一環と



して「ふれあい動物園活動」実施している。年間活動回数は20～30回、年間活動対象者数1500名以上で、全ての活動はボランティア活動として実施している。また、動物介在活動および動物介在教育に関する研究活動を継続的に実施している。研究の成果は、農業科高校生の研究発表の場である農業クラブ連盟大会プロジェクト発表大会において高い評価を受けており、2003、2004、2005年と3年連続で近畿大会への出場を果たしている。

年度	研究タイトル	結果
2003	出動!! 動物講座	第51回近畿学校農業クラブ連盟研大会 プロジェクト発表の部 優秀賞受賞
2004	知って納得さわって実感 発展!! 動物講座	第52回近畿学校農業クラブ連盟大会 プロジェクト発表の部 優秀賞受賞
2005	ヤギブーム到来!? ヤギのいいところ広めよう物語	第53回近畿学校農業クラブ連盟大会 プロジェクト発表の部 出場 第60回日本生物教育会全国大会 ポスター 発表の部 優秀賞受賞

幅広い年齢層の方々に動物の抱き方・動物に対する正しい知識を伝え「動物とのコミュニケーションのとり方」を、動物とのふれあいや動物の温かさを通じて「命の重さ」を様々な方法で伝えている。同部の活動は新聞・テレビ・ラジオなど

に大きく取り上げられ、多方面より高く評価されている。

2004年11月27日 朝日新聞

大阪 市内

ヤギ・ヒツジ・モルモット… 触れ合ってみて

ふれあい動物園「鼓動や温かみ伝わる」

農業科生徒が移動動物園

小中学校や老人ホームへ

大阪府立農業科高校の生徒が、移動動物園として、市内の小中学校や老人ホームなどに訪問し、ヤギやヒツジ、モルモットなどの動物と触れ合い、動物の飼育方法や動物の生態について説明している。生徒たちは、動物の温かさや鼓動を伝え、動物とのコミュニケーションのとり方を教えている。また、動物の飼育方法や動物の生態について説明している。また、動物の飼育方法や動物の生態について説明している。

2004年11月27日朝日新聞

府立農業科高校ふれあい動物部の移動動物園

やさしさと触れ合い
こども、お年寄りへ

テnderハート賞受賞

大阪府立農業科高校の生徒が、移動動物園として、市内の小中学校や老人ホームなどに訪問し、ヤギやヒツジ、モルモットなどの動物と触れ合い、動物の飼育方法や動物の生態について説明している。生徒たちは、動物の温かさや鼓動を伝え、動物とのコミュニケーションのとり方を教えている。また、動物の飼育方法や動物の生態について説明している。また、動物の飼育方法や動物の生態について説明している。

2004年9月28日産経新聞

<2004年～2005年のふれあい動物園活動に対する評価>

- 第13回テnderハート賞（活動記録部門） テnderハート賞受賞
- 第4回課題研究コンテスト 努力賞受賞
- 第54回読売教育賞（地域社会教育活動部門） 最優秀賞受賞

4 堺市立平尾小学校第2学年児童との動物学習活動

現代の子どもたちは動物と触れ合う機会が少なく、動物への意識が薄れてきている。子どもたちに動物に対してもっと関心をもってもらうことができないかと、私たちは考えていた。

2005年5月、動物とのふれあいを通じて、楽しく・わかりやすく子どもたちに「畜産」という面から動物について関心・興味を持ってもらうことはできないかと考え、ヤギを用いた動物介在教育活動の計画を立てた。同月、本校に隣接する堺市立美原西小学校において第2学年児童を対象に「生活科」の授業内で実施したところ、大成功を収めることができた。活動の噂は堺市立平尾小学校にも広まり、同校の先生より活動の依頼が舞い込んだ。

第1次活動 ヤギと触れ合おう！！

6月28日（火）

平尾小学校第2学年児童78人を対象に科目生活科の授業においてヤギを用いた動物介在教育活動を実施した。楽しくわかりやすい授業を行うために、ヤギの特徴部位などの説明を記載した看板、動物観察及びクイズプリント、ヤギの飼料で作製したせんべいなどを授業教材として用いた。児童の前に看板を展示したところ、大変興味を示し自ら進んで看板を見る姿が見受けられた。また、児童に1人1枚のせんべいを配布したところ、匂いをかぐなど興味を示している姿も見受けられた。そして児童全員がヤギと実際にふれあいを体験できるように配布したせんべいを1人ずつ動物に与えてもらったところ、非常に喜んでる姿が見受けられた。

この活動により、ヤギを通じて畜産への関心・興味を持ってもらうことができたと言える。また、ヤギとのふれあいを通じて児童に動物というものに対する意識を芽生えさせることができたと言える。

<活動当日の時程>

時間(45分)	内容
5分	自己紹介 ふれあい動物部の説明
20分	ヤギの説明 ヤギの生態的特徴・飼料に関する説明 畜産動物という視点から見たヤギの特徴
15分	観察・クイズ 観察しながら体の特徴を捉えてもらう ヤギに関するクイズ
5分	終わりの言葉



看板を見る児童たち



ヤギに関するクイズ



スケッチを行う児童

第2次活動 大好きな動物を見つけよう！！

6月28日にヤギを用いた活動を通じて、ふれあい動物部の活動に興味を示して下さった平尾小学校の先生から、「今後も生活科の単元“いきものとなかよし”において継続的な連携活動を行うことはできないか」との話を頂いた。そこで、今度は子供たちに本校農場に来てもらいヤギ以外の動物も見ってもらうことにした。

10月11日（火）

第2学年児童78名（2クラス）が本校へ来校した。子供たちに資源動物科で飼養管理を行ってい

る動物を見学し、ふれあう機会を提供した。50分間と限られた時間の中で、私たちは乳生産加工部で飼養管理している牛及び馬、中小家畜部で飼養管理している豚及び鶏、そしてふれあい動物部で飼養管理している15種類の動物を効率よく見学してもらうため、計5箇所の見学場所を各箇所約8分ずつ、ローテーション方式にて班単位で移動し、見学してもらうことにした。また2クラス78名の児童を1班約12名となるように6班に分けた。各班には部員2名が付き添い、農場を案内した。

普段では目にすることの少ない畜産動物など、

様々な動物の見学、ふれあいを通じて児童たちに
“動物に対する関心・興味”をより一層深めても

らうことができたと言える。

時間 (50分)	内容
5分	始めの挨拶
40分	班単位に分かれ見学、ふれあい (牛、ふれあい動物、豚、鶏、馬)
5分	終わりの挨拶

10月18日 (火)

次に私たちが堺市立平尾小学校を訪問した。5時間目の「生活科」の授業にゲストティーチャーとして参加させてもらい、子供たちの動物に対する「どうしたら動物さんたちと仲良くなれますか？」などの様々な質問、疑問に答えた。

10月28日 (金)

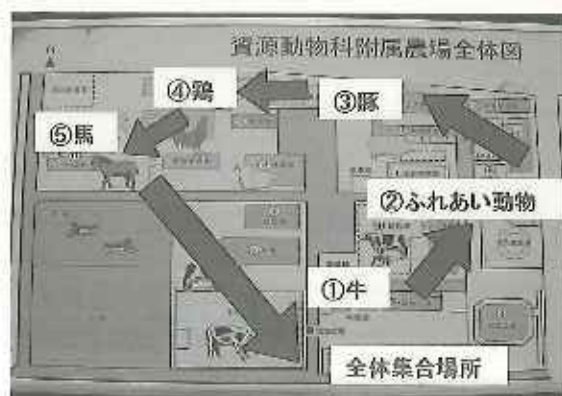
平尾小学校第2学年担任の先生に本校に来て頂き、今後の活動について話し合った。その結果、11日の活動の際に児童が最も興味を持った動物ごとにグループ分けを行い、次回はグループ別の活動を行うこととした。また、より動物に対する理解を深めてもらうため、次回の活動は1クラスずつ2日に分けて実施することとした。

第3次活動 動物と仲良くなろう！！

前回までは、第2学年児童2クラス合同で授業を行ってきたが、児童一人一人がより理解を深めやすいよう、今回は1クラスごとと少人数制の活動を行うこととした。また10月11日の活動の際、児童が最も興味を持った動物種ごとに分かれてもらい、グループ別での活動を行うこととした。

11月1日 (火)

第2学年児童39名(2組)が本校へ来校した。児童たちはポニー、ホッキョクギツネ、ヤギ・ヒツジ、ウサギ・モルモット、ネズミ・ハムスター、フェレットの計6つのグループに分かれ、各グループに部員2名が付き添い授業を行った。児童たちは、事前に学習計画を立てて来ており、私たち部員は児童た



ちの補助をするという形での下表のように授業を行った。

児童達はグループに動物の管理作業を行った結果、「可愛いだけでは動物を飼えない、動物を飼うには管理作業が必要となる」ということを伝えることができたと言える。

時間 (50分)	内容
5分	始めの挨拶
10分	担任の先生からの説明
30分	各グループ別活動 ポニー：ブラッシング、掃除、散歩、餌やり ヤギ・ヒツジ：ブラッシング、掃除、散歩、餌やり ホッキョクギツネ：掃除、散歩、餌やり

	ウサギ・モルモット：ブラッシング、掃除、餌やり マウス・ハムスター：掃除、餌やり フェレット：ブラッシング、掃除、散歩、餌やり
5分	終わりの挨拶



ウマのブラッシング



ヤギの畜舎の清掃



児童の質問に答える部員



ウサギの敷料交換

12月13日（火）

第2学年児童39名（1組）が来校、11月1日と同様の活動を行った。

第4次活動 思いを伝えよう

3学期には、本校で見たこと・感じたこと・経験したことをクラスの仲間や家族に伝える活動を計画している。動物とのふれあいを通じて感じたことを伝えることにより、「自分にとって動物とはどのような存在なのか」を再認識させることができるのではと考えている。2006年1月～2月に実施予定である。

5 今後の課題

現在までは堺市立平尾小学校第2学年児童のみを対象として活動を行ってきたが、今後は活動範囲の拡大を狙いたいと考えている。また、児童

が動物の生態をより理解しやすくするため、現在ふれあい動物部で飼養管理している動物の飼育環境をその動物にとって最適の環境に近い状態にしようと考えている（環境エンリッチメント）。このことにより、その動物特有の行動を発現させることができ、動物の本来の姿を児童に見せることができると考える（生態展示、行動展示）。このように、動物の自然な姿を観察してもらうことによって、児童たちに普段では目にすることのできない野生動物を身近に感じ、動物全般に対する理解をより深めてもらうことができるのではないかと考えている。

以上の事柄を目標とし、今後も活動を行っていきたいと考えている。

（大阪府立農芸高等学校資源動物科農業クラブ「ふれあい動物部」）

